

食の安全委員会

～食のムダをなくし「物価高」を乗り切りましょう！～

今月のおすすめ食材 ～玉ねぎ～

★玉ねぎの栄養素は特有の辛みやニオイの元、硫化アリルは「アリシン」という成分に変化して、血液サラサラにしてくれる効果が期待できます。豚肉やカツオのビタミンB1と結びついて、疲労回復の効果があるとされています。



常温:暑い夏以外は、紙袋・ネットで冷暗所。黒い布をかけ、暗くしておく
ポリ袋に入れる場合は、ポリの袋の口を開けたままに。
真夏はポリ袋で野菜室へ。

冷凍:スライスしてジッパーに、うすく平らに入れて冷凍。

みじん切りやスライスして、あめ色になるまで炒めた後、冷めたらジッパーに薄く平らに入れて冷凍。袋には、年月日を記入し、一か月以内に使い切る。

～冷凍玉ねぎの利用方法～

- ・チキンと玉ねぎのケチャップ・カレー・ドレッシング
- ・むね挽肉とポテトの焼き揚げ・オニオンスープ・炒飯など

新玉ねぎは・・・

- ・薄く半月輪切りにして、平らな大きめの皿に薄く平らに広げ、一日置く。
時々返して切断面を空気に当てると、辛みが減少して食べやすい。
- ・タッパーに入れ、ビニール袋で密封して冷蔵庫へ。かつお節、醤油やポン酢をかける。サラダ・マリネにも応用できる。



釧路消費者協会インスタグラム始まっています！



昨年の10月からインスタにて活動の様子などをお知らせしています。

今現在は大きな事業や活動の際に投稿しています。今後はすべての事業を投稿できるようにするのが目標です。

ぜひフォローよろしくお願いします。

右のQRコードからフォローできます。

(インスタグラムにアカウントを作成する必要があります。)



@KUSHIROSHOHI

協会だより 6月号



釧路消費者協会

釧路市黒金町7-5 釧路市役所 2階

電話24-2037 fax24-2075

発行 令和5年6月12日

協会の動き

6月 1日 (木)	三役会議
9日 (金)	広報編集会議
12日 (月)	協会だより発送
21日 (水)	定例理事会



消費者月間パネル展 (中央図書館)

人類80億人・・・さて日本の課題

副会長 松本 範一

世界の人口は2022年11月15日に80億人に達しました。国連によると、人口の増加はインドやアフリカ諸国などで著しく、1960年には30億人でしたが、2010年には70億人を超え、国連は昨年11月に世界の人口が80億人に達したということです。今世紀中には100億人を超えピークを迎え、その後減少に向かうともいわれています。世界は今後アフリカ大陸やインドに代表される人口の増加と日本・中国等のアジアやヨーロッパ・南アメリカ等の人口減少が同時に進行する世界をどのように切り抜けていくのでしょうか。

また人口問題と切り離せないのが食糧問題で、人口増加と減少の地域で異なる課題をもたらしています。人口増加地域では、食糧安全保障や栄養不足の改善が必要ですが、人口減少地域では、農業の持続可能性や食料自給率の向上が課題と言われます。

さて、日本では平均寿命が延び続け、女性は87.57歳、男性は81.47歳に達しモナコを除けば世界で最も高齢化が進み、人口の3割近くを65歳以上が占め、人口減少地域の代表例ともなっています。また人口は2010年に1億2800万人をピークに、現在は1億2500万人ですが、今後減少していきます。(国連推定2050年に9515万人)

高齢化対策では世界をリードする国とも言われる日本ですが、就業者の高齢化が進む農業の現状は日本が解決しなければならない最大の課題ではないでしょうか。

日本の食糧自給率が38%となり、自給率の向上が食糧安全保障上最重要であるといわれる中で、大変苦境に立たされている農業、とりわけ酪農家の状況は厳しく、各地の酪農家が赤字を抱え離農の危機を抱えた窮状を訴える報道は毎日のように私たちの耳に入ってきています。

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、世界の穀物や肥料・飼料価格の高騰を生み、流通に欠かせない燃料も高騰し、経営の赤字が拡大しています。更に2014年頃からのバター不足で増産を要請され施設投資を行い乳量の増加に努力した酪農家に対し、供給過剰となり、乳量を減らすため農水省が次のような方針を打ち出しました。「生乳の需給改善に向けて、乳量が少ないなどの低能力牛を早期に淘汰する場合、2023年9月までは1頭当たり15万円を交付する」というものです。しかし酪農家は「家族同様に育てている牛を淘汰することに国が助成するのはどうかと思う」と複雑な思いです。そして「一番の問題は在庫調整であり、しっかり国が需給調整をする将来ビジョンを描いた対策を行ってほしい」と窮状を訴えています。食糧安全保障上待ったなしの今、酪農家を守るしっかりとした国の政策が急務ではないでしょうか。



「5月の消費者月間」事業報告！

2020年以降、コロナ禍により対面型イベントを自粛してきましたが、今年は消費者月間の行事として、4年ぶりに街頭啓発や、学習会、バス研修を開催しました。

合わせて、悪質商法や消費者トラブルなどのパネル展も3か所で実施しました。

今年の全国統一テーマは「デジタルで快適、消費生活術～デジタル社会の進展と消費者の暮らし～」。路線バスを電子マネー「WAON」を使って乗る体験や、スマホの基礎的な学習会を開催し、どちらも大変好評でした。急速に進むデジタル社会、私たちの生活は、情報収集やオンライン消費、会議など非常に便利になった一方、消費者トラブルも発生しリスクもありますが、トラブルを避けながら、自分の生活に必要なデジタルのノウハウを蓄え活用して、快適な消費生活を送りましょう。

《バス研修》



バスでWAON体験



全員でハイポーズ！



街頭啓発



パネル展



スマホ講座

電気料金の行方

～どうなっているのか電気～

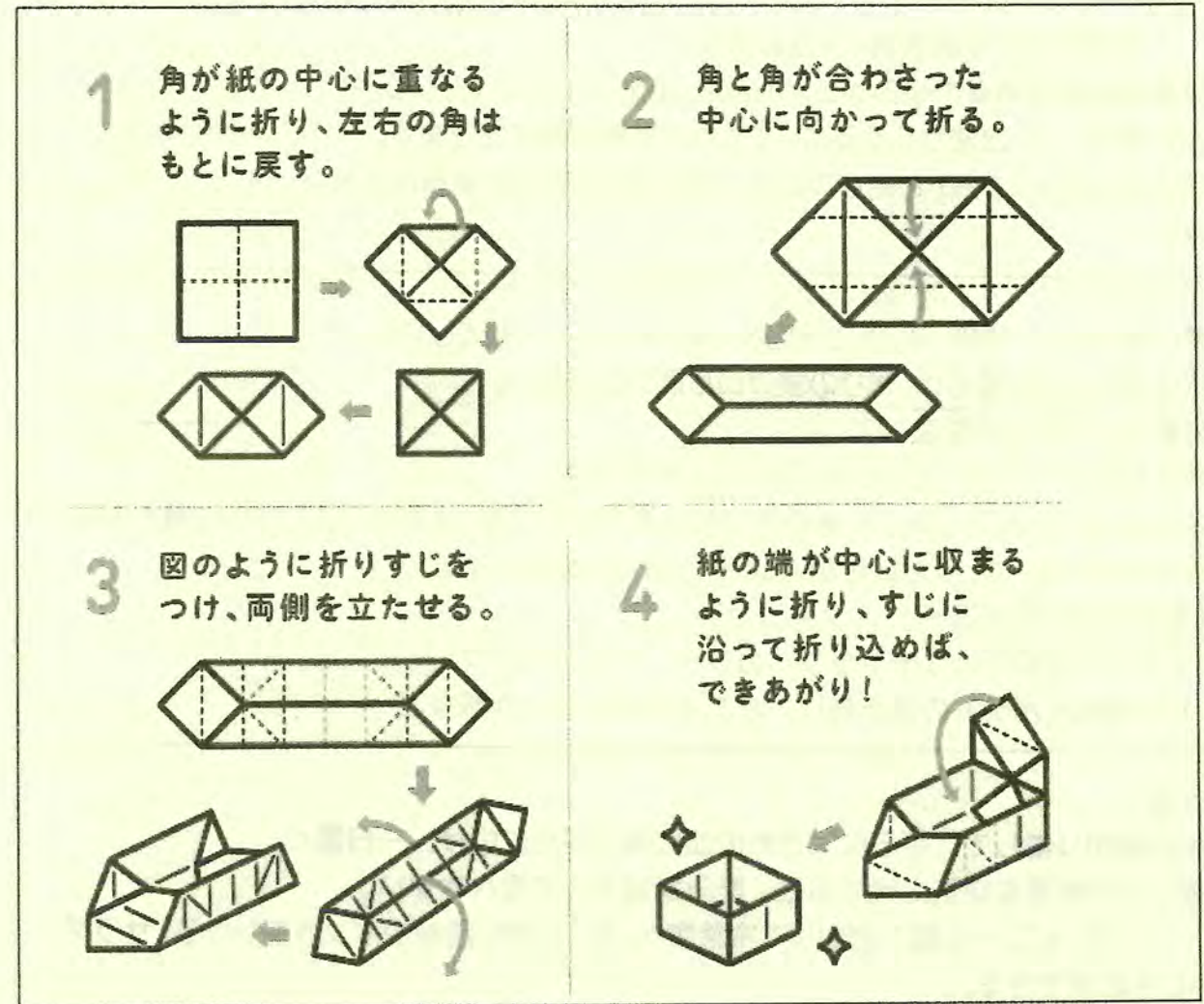
大手電力で相次いだ顧客情報の不正閲覧やカルテルなどの不祥事が、電気料金に与えた影響について経済産業省に説明を求めた問題。経産省の説明に納得しない消費者庁と意見が真っ向から対立したように見えたが、経産省とのこれまでの協議を受け、消費者庁は一定の検証結果が示されたなどとして、審査体制の強化などを前提に値上げを了承しました。

消費者庁が経産省による丁寧な情報提供と説明を条件に容認しました。北海道電力の値上げ幅は6月使用分から平均23.2%となります。



災害時に役立つ古新聞 NO. 2

NO.1ではスリッパの作り方を紹介しましたが今回は古新聞で、簡単にできるお皿の作り方を紹介します。



6月は環境月間です！～資源環境委員会～

6月5日は環境の日です。

国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」（平成5年）が「環境の日」を定めています。

「環境基本法」は、事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるという「環境の日」の趣旨を明らかにし、国、地方公共団体等において、この趣旨にふさわしい各種の行事等を実施することとしています。

我が国では、環境庁の主唱により、平成3年度から6月の一ヶ月間を「環境月間」とし、全国で様々な行事が行われています。世界各国でも、この日に環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため様々な行事が行われています。

